

---

## 第3期 生協価値再認識と累積赤字解消期 (2012年～)

### (1) 常勤理事長体制へ

生協の事業規模が大きくなり、社会的な存在になったことから生協法が改正されたことを受け、それまで非常勤だった理事長を常勤にするなど役員体制が変わりました。

### (2) 福祉的とりくみが広がる

事業・活動のなかで、組合員の困りごとに応える事業活動が広がりました。特に、「福祉的とりくみ」として、夕食宅配「ゆ〜たく」、移動店舗まちかど便、商品お届けサービス、送迎サービス、キッズ割、シルバー割70、クローバー割、特例子会社設立による障がい者雇用や有償ボランティア「おたがいさま牧港」の活動も始まりました。那覇市など県内5つの市・社会福祉協議会と見守り協定も締結しました。

### (3) 暮らしの変化にあわせて

社会の変化に伴い組合員のくらはは多様化し、それに伴う生協への要望も様々に広がりました。これらの要望に応えて、電子マネーEdy やクレジット利用などができるようになりました。

### (4) 店舗・協同購入・暮らしのサポート事業を総合的に推進

「店舗も協同購入も、別々の生協みたい」との声が寄せられることが多かった事業ですが、すべての事業を総合的に推進して組合員へのお役立ちを広げることをめざしました。

店舗事業では、一人ひとりの組合員のくらしへのお役立ちを増やし、「美味しい惣菜屋さん」をめざすなかで、経営改善を進めました。また赤字の減少で黒字が見通せるようになり、2016年度にはミニ店舗の出店も計画しています。協同購入では、カタログをリニューアルして組合員の声の掲載を増やし商品を購入しやすくしたり、キッズ割やシルバー割70、クローバー割などの割引制度を導入し、利用のしやすさを広げてきました。共済事業やハウジング、葬祭、チケット販売や斡旋事業などは「暮らしの安心をサポートする事業」として浸透してきました。

---

## **(5) 健康食育のとりくみが強まる**

沖縄県の平均寿命の全国順位の低下などを受けて、健康食育の取り組みも始まりました。2013年からは、子どもが自分で弁当をつくる「弁当の日」の講演会の連続開催に取り組みました。子どもの自立、周囲への感謝を育むことの大切さを多くの組合員が学びました。生協職員の中でも「弁当の日」がもたれるようになりました。そのほか、学校と提携して子どもが食べ物について学ぶ「ファイブ・ア・デイ」を店舗で開催したり、定置網体験を行うなど多彩に取り組みられました。

## **(6) 地域おこしで「協同組合地域貢献コンテスト」の最優秀賞を受賞**

2012年、国連が定めた「国際協同組合年」を記念し開催された「協同組合地域貢献コンテスト」で、コープおきなわの「地域の困りごと地産地消で解消する地域おこしプロジェクト」が最優秀賞を受賞しました。地域の行政や漁協・農協、生産者やお取引先と一緒にした取り組みが評価されました。

## **(7) 新人事制度導入**

沖縄県内で求人が増えるにつれ、パートナー職員の採用が厳しくなりました。職員の体制を安定化させるため、パートナー職員から専任職員、専任職員から正規職員への登用などがすすみました。2016年からは新しい人事制度を導入して、職員全体が1つの人事制度で運用されるようになりました。

## 2012年度 【平成24年度】

■組合員	21万2648人
■供給高	201億4084万円
■出資金	48億9166万円
■職員数	244人

### 2012年 国際協同組合理年

- 4/1 「東日本大震災復興支援募金」に取り組む
- 4/22 東日本大震災復興支援交流会（いわて生協「かけあしの会」）
- 5/28 「平和活動募金」（58万1970円）
- 6/19 第39回通常総代会開催
- 6/23 第19回「ファミリーピースウォーク」
- 7/2 夕食宅配「ゆ〜たく」、那覇市（小禄除く）、浦添市、宜野湾市でスタート
- 7/27 食育講演会（佐藤剛史氏）を開催
- 7/18 「協同組合地域貢献コンテスト」最優秀賞受賞
- 9/25 公正取引委員会より生協連に対して下請代金支払遅延法に基づく違反勧告。コープおきなわでは、沖縄総合事務局より9/29に改善指導があり、改善に向けた取り組みを行う
- 10/1 総代定数が350人になる
- 10/1 「いわて生協・移動販売車購入支援募金」「みやぎ生協・思い出づくり=心の支援活動義援金」に取り組む（～12/31）
- 10/26 「黒糖アガラサーミックス」など商品代の一部を教育支援金として伊平屋村に贈呈
- 12/ ふれ愛メモリアルホール牧港「こ・こ・ろ」と提携（コープ葬祭）
- 1/1 「お年玉募金」（170万7826円）（～2/8）
- 1/17 「ありがとう、私の生協!エピソード」表彰式
- 3/17 「『弁当の日』が人と人をつなぐ」（竹下和男氏）講演会開催

### ■国際協同組合理年

国際連合総会で2012年を「国際協同組合理年」とすることが宣言されました。協同組合がもたらす社会経済的発展への貢献が国際的に認められた証で、特に貧困削減、仕事の創出、社会的統合に果たす役割が注目されました。世界各国で協同組合の認知度向上などをめざし、さまざまな取り組みが行われました。

コープおきなわでは、地域の協同組合と連携して、講演会や協同組合フォーラム、協同組合まつり「演劇おもひでぼろぼろ」に取り組みました。沖縄県協同組合間提携推進協議会女性部会交流会では、県連とともに賀川督明氏講演会の開催に取り組みました。



### ■東日本大震災復興支援交流会

東日本大震災から1年が経ち、被災地の現状を知り、忘れないこと、できる支援を続けていくことが大切であると、復興支援交流会が企画されました。4月22日には、岩手県宮古市で復興支援プロジェクト「かけあしの会」を立ち上げ支援活動を継続されている皆さんを沖縄に招き、組合員との交流会を行った他、店舗では「かけあしの会」物産販売も開催しました。

また、震災復興支援の「くらし応援募金」も継続実施し、237万円を支援しました。

さらに、「福島子どもプロジェクト」、「移動販売車募金（岩手）」、「心の支援義援金（宮城）」にも取り組みました。



## ■「協同組合地域貢献コンテスト」 最優秀賞受賞

コープおきなわでは、もずくや黒糖など地場産品を活用した商品開発と普及を通して、地域や人、ネットワークづくりに取り組んできました。2012年まで、11の市町村・漁協・農協などと20品目の商品を開発し、商品代の一部を子どもたちの教育支援、植樹などで地域に還元しました。この「地域の困りごとを地産地消で解決する『地域おこしプロジェクト』」の取り組みが、国際協同組合年を記念した「協同組合地域貢献コンテスト」で最優秀賞を受賞しました。

## ■ゆ〜たくスタート

7月2日から、組合員の声に応え、那覇・浦添支所のエリアで夕食宅配「ゆ〜たく」がスタートしました。栄養バランスとカロリーが計算されたお弁当をお届けする制度で、高齢者や療養・出産・多忙などで食事作りが難しいという人々などから、「食事作りがとても楽になって助かる」と喜ばれ、利用が広がりました。その後西原・豊見城支所エリア、北谷・具志川支所エリア、名護支所エリアと配達地域も広がりました。

## ■総代定数 350 人へ

総代の定数を 350 名に増やし、より多くの組合員が運営に参加できるようにしました。総代学習会を定期的で開催し、情報提供や学習の充実を図りました。また、民主的な運営をめざし、常任議長を置くなど、ガバナンス（統治）も強化されました。

## ■「ありがとう、私の生協エピソード」表彰式

国際協同組合年を記念して、日々の暮らしの中で感じた人とのつながりやコープ商品にまつわるエピソードを募集したところ、74 通の心温まるエピソードが寄せられ、各賞が決まりました。2013年1月17日には表彰式が行われました。

## ■弁当の日講演会

3月17日、食事の大切さを考えるきっかけにしようと「弁当の日」提唱者の竹下和男氏を招いた講演会を開催。那覇市民会館と名城大学の2会場で約 900 人が参加して「食」や「人と人とのつながり」を考える貴重な場となりました。

## ■「こ・こ・ろ」と提携

コープ葬祭では、近親者だけなど少人数で行う「家族葬」の要望が増えてきたのに伴い、ふれ愛メモリアルホール牧港「こ・こ・ろ」と提携しました。同会館は12月にオープンしました。

## 2013年度 【平成25年度】

■組合員	21万6071人
■供給高	208億2747万円
■出資金	50億2497万円
■職員数	251人

- 4/1 宅配事業「赤ちゃん割引」スタート
- 6/3 「平和活動募金」(27万246円)
- 6/19 第40回通常総代会開催
- 6/23 ファミリーピースウォーク開催
- 7/23・24 「〚弁当の日〚が人と人をつなぐ」(竹下和男氏) 講演会開催
- 8/1・2 「大型定置網漁体験」開催
- 8/7 「ピースアクション in ナガサキ」
- 8/23 (株)あっぴるが名護支所の屋根を借りて太陽光発電システム設置、運転開始
- 11/ 「フィリピン台風被害支援募金」(208万1648円)
- 12/23 「〚弁当の日〚が人と人をつなぐ」(竹下和男氏) 講演会開催
- 1/1 「お年玉募金」(344万7370円)
- 1/20 コープおきなわレシピ本『毎日のうちごはん』発売
- 3/3 「移動店舗コープのまちかど便」出発式
- 3/ 宅配「クローバー割引」をスタート
- 3/ 参加を広げる組合員活動政策(略称:組活政策)を改定
- 3/ 那覇支所、浦添支所が合併  
コープこくばで小学校の食育学習「5ADAY」の受け入れ  
「参加を広げる組合員活動政策」を策定

### ■ 宅配赤ちゃん割引・クローバー割引スタート

母子手帳を持っている方や3歳未満の幼児がいる方、ご自身または同居の家族が障がい者手帳を持っている方を対象に、宅配手数料が半額になる割引制度を3月からスタートしました。

### ■ コープのまちかど便

近所に店がなく車も運転できない、宅配の注文書を書くことができない、といった切実な思いを持つ組合員さんの声を受け、コープ美里とコープこくばの地域を中心に、3月から移動店舗「コープのまちかど便」が始まりました。商品を実際に見て手に取り、買うことができる移動店舗は、買い物楽しさや地域の絆、愛情をお届けするとともに、一人ぐらしの高齢者が多い地域を中心に、自治会と協力しながら地域のつながりを広げ、見守的な役割も担うことをめざしています。



## ■「組合員活動政策」を制定

組合員は生協の主人公であり、組合員の参加を広げるために、出資・利用・参加を原則にした具体化を進めました。

「ゆんたくパーティー」は、年2回開催し、この1年で2万4300名の参加がありました。提出された報告書は、地域協議会や理事会で読み込みをし、2月には組合員3名で申し込めるようにしました。

また、「コープ会」は47グループ、226名が登録し、商品の試食・学習や健康講座の企画など活動を進めました。

さらに組合員の生協への参加がより広がるように、「参加を広げる組合員活動政策」を策定しました。

## ■那覇支所・浦添支所合併

那覇支所・浦添支所の合併や配達を委託していた部分を自前配達するなど、事業構造改革を進め、収益性の改善を図りました。

## ■コープのローストチキン

北部ブロックの組合員と生産メーカーの（有）中央食品加工が共同で「産直やんばる若どり」を使った「ローストチキン」を開発。甘タレ味とガーリック味2種類の販売がスタートしました。

コープのローストチキンは約1.3kgと大きめで、1羽ずつ丁寧に下ごしらえされ、国産にんにくや丸大豆しょうゆなど厳選された材料で、なるべく添加物を使わず調味され、スチーム加工や急速冷凍を行うなど、素材と製法にこだわり、おいしく仕上げました。



## 2014年度 【平成26年度】

■組合員	21万9796人
■供給高	203億1293万円
■出資金	51億8742万円
■職員数	282人

- 4/1 消費税率が8%に引き上げられる
- 4/12 コープおきなわのテレビ番組「ハッピープラス」スタート
- 6/ 店舗LINE@開始
- 6/18 第41回通常総代会開催
- 7/1 那覇市と「地域見守り協力に関する協定」締結
- 8/19 (株)ハートコープおきなわ設立
- 8/19 「集団的自衛権の行使容認」の閣議決定に反対し撤回を求める文書を内閣総理大臣に提出
- 9/17 南城市と「地域見守りネットワーク事業の協定」を締結
- 10/ 有償たすけあいシステム「おたがいさま牧港」スタート
- 10/27 コープ全店でクレジットカード払い可能に
- 12/2 沖縄市社会福祉協議会と地域見守り協定締結
- 12/9 北谷町社会福祉協議会と地域見守り協定締結
- 1/20 糸満市社会福祉協議会と地域見守り隊活動協定を締結
- 1/30 有償たすけあいシステム「おたがいさま牧港」設立
- 3/ 宅配「キッズ割」「シルバー割」スタート  
「核不拡散条約(NPT)要請行動派遣募金」実施(40万2700円)
- 3/ JICA 草の根支援型事業で「ラオラオ酒協同組合結成によるラオス国アタプー県共同体機能強化支援事業」が採択される

### ■消費税率 8%スタート

4月1日から消費税が5%から8%へ引き上げられました。コープおきなわ理事会は、消費税増税に対する見解を発表しました。

### ■ハッピープラス開始

4月12日(土)より、コープおきなわのテレビ番組「ハッピープラス」がスタート。コープの良さ(商品や産直、組合員活動)をお伝えし、コープの理解と認知を高めることをめざしました。



### ■店舗LINE開始

ホームページをリニューアルし、テレビ番組用のフェイスブックやスマートフォン用のホームページも開設。コープのお店の公式アカウントとして、LINE(ライン)も始めました。



## ■地域見守り協定締結（那覇市、南城市、沖縄市、北谷町）

7月1日、那覇市とコープおきなわ、ライフライン事業者（沖縄ガス、沖縄電力、太閤建設、第一環境連合体）は「地域見守り協力に関する協定」を締結しました。コープおきなわは、「地域とともに、暮らしをよくしていく取り組み」の一環として、可能な自治体と協力し、宅配や夕食宅配だけでなく、店舗も含めた職員が組合員や地域の高齢者などの異変に気付いた場合、事前に取り決めた連絡先に連絡・通報を行い、関係機関が安否確認などの対応を行います。その後も、南城市、沖縄市、北谷町、糸満市で協定を結びました。



## ■（株）ハートコープおきなわ設立

子会社「（株）ハートコープおきなわ」を設立。知的障がい者を常用雇用し、自立支援と社会参加ができる環境づくりの支援をめざし、県内初の特例子会社として5名の社員を迎え、あっぱるタウン内に事業所を構えスタート。各店舗の惣菜原料のごしらせを請け負っています。

惣菜は「おいしい」と好評で、品目も徐々に増加。「障がいのある子どもたちの雇用が広がり、活躍できる場が増えれば」といった期待が内外から寄せられました。また、コープ山内でもベーカリーがスタートし、新たに採用も決定。障がい者の雇用促進に努めるとともに、社会で活躍できる

仕組みづくりの拡充を進めました。



## ■「集団的自衛権の行使容認」撤回を求める文書を提出

コープおきなわ理事会は、政府が7月1日の臨時閣議で従来の憲法解釈を変更し、「集団的自衛権の行使を容認する」と決定したことに強く反対し、撤回を求める文書を内閣総理大臣に提出しました。

## ■「おたがいさま牧港」スタート

有償ボランティア組織「おたがいさま牧港」をスタートしました。3年間の協議を経て、コープおきなわでは初の「おたがいさま」を発足することができました。

## ■クレジット決済導入

利用しやすいお店をめざして、ポイント5倍デーを実施したり、要望の多かった「クレジット決済」を10月27日より全店で導入しました。

## ■宅配キッズ割・シルバー割開始

個人宅配手数料210円が105円と半額割引になるお買物支援制度において、以前から要望の多かった赤ちゃん割の対象年齢が引き上げられ、名称をキッズ割に変更しました。また、70歳以上の割引も実現しました。



## 2015年度 【平成27年度】

■組合員	22万6956人
■供給高	206億3401万円
■出資金	54億7183万円
■職員数	305人

- 4/1 (株)ハートランドおきなわ設立
- 4/25 暮らし助け合いの会「ちゅいしーじー」閉会
- 4/25 「NPT(核不拡散条約)再検討会議」派遣  
(~5/1)
- 6/17 第40期通常総代会開催
- 7/ 沖縄協同病院、とよみ生協病院の病院内売店  
事業を引き継ぐ
- 8/18 「安全保障関連法案の廃案を求める意見書」  
を内閣総理大臣、参議院議長へ提出(コープ  
おきなわ理事会)
- 10/4 浦添・宜野湾ブロック開発「ふすま入り食パ  
ン」発売開始
- 10/8 「沖縄の子どもたちの貧困と私たちにできるこ  
と」講演会(山内優子氏)開催(生協のふく  
しを考える会)
- 10/12 「のあちゃんに心臓移植を!募金」を取り組む
- 10/19 「与那国台風被害支援の緊急募金」に取り組  
む(~11/30)
- 11/14 コープ首里リニューアル
- 11/18 福島視察(~11/20)
- 12/5 コープ山内リニューアル
- 2/20 創立40周年記念式典開催
- 2/21 コープフェスタ2016開催
- ※ 業務用語の見直し  
宅配→協同購入、グループ宅配→グル  
ープ利用、コープ個配→個別利用

### ■(株)ハートランドおきなわ 設立

4月1日、子会社(株)ハートランドおきなわ  
を設立しました。同社は、就労継続支援A型事業  
所として「ハートランドおきなわ首里」を運営。  
同事業所はコープ首里で焼きたてパンの提供を始  
めました。また、11月14日のコープ首里リニ  
ューアルに伴い、コーナーも広く、パンの種類も  
豊富にするなど、パワーアップを図りました。



### ■NPT 再検討会議へ派遣

二度と家族を戦場に送らない平和なくらしを子  
どもたちに引き継ごうと、5月にニューヨークの  
国連本部で開催された、NPT(核不拡散条約)再  
検討会議に、具志純子副理事長を派遣。全国各地  
の生協の代表と被爆者の皆さんとともに、被爆者  
の証言活動を支えたり、原爆の悲惨さと核兵器廃  
絶を強く訴えました。



## ■「安全保障関連法案の廃案を求める意見書」を提出

コープおきなわ理事会は9月19日、安全保障関連法案の採決に抗議し、廃止を求める意見書を内閣総理大臣および参議院議長へ提出しました。

## ■コープ首里&コープ山内 リニューアル

11月14日にはコープ首里を、12月5日にはコープ山内をそれぞれリニューアルオープンしました。

コープ首里のリニューアルオープン当日は、関係者や地域の組合員が大勢、来店する中、那覇A地域協議会の皆さんが中心となってオープニングセレモニーが開催され、にぎやかなスタートとなりました。



## ■福島を視察

東日本大震災の発生から時間の経過とともに、被災地の現状を伝える報道も減少し、風化も懸念される中、コープふくしまでは、福島を「忘れない・伝える・続ける・つながる」活動として、県外生協によるたくさんの「被災地視察」を受け入れています。コープおきなわは、11月18日～20日、「東日本大震災復興支援募金」の一部を活用し、組合員と職員8人が福島を視察。コープふくしまの役職員や組合員の案内のもと、原発事故被災地や避難地を訪ね、仮設住宅でくらす人たちと交流しました。

参加者は「今後も現地に必要な寄り添う支援を続けていきたい」と、思いを新たにしていました。



## ■ふすま入り食パン

10月4日、浦添・宜野湾ブロックの組合員が中心となって開発された「ふすま入り食パン」が発売されました。コープおきなわの40周年プロジェクトとして、生協仕様商品および産直商品の開発・改善を進めようと、各ブロックごとに取り組みされた企画の一つで、健康志向の高まりを受けニーズが広がりを見せる「ふすま」の入った食パンは、発売と同時に好評で話題となりました。

## ■40周年記念式典を開催

2月20日、歴代役員や元職員、行政、取組先の皆さんらを招き、ラグナガーデンホテルで40周年記念式典が開催されました。

コープおきなわの理事長・山本靖郎が謝意を述べた後、日本生協連会長・浅田克己氏、日本コープ共済連理事長・佐藤利昭氏からの祝辞、沖縄ハム総合食品（株）代表取締役社長・長濱徳勝氏による乾杯の音頭で和やかな雰囲気での歓談へと移りました。

懐かしい顔ぶれにテーブルを移動しながら声を掛け合い、昔話に花が咲く出席者の皆さん。職員らによる、かぎやで風やエイサーなども行われ、最後は出席者全員でカチャーシーを踊り、にぎやかな閉幕となりました。



## ■「コープフェスタ2016」開催

2016年2月21日、コープおきなわ40周年記念事業「コープフェスタ2016」をコンベンションセンターで開催。当日は開場前から入場待ちの列ができました。

フェスタは「感謝と元気、わたしの生協」をテーマに県内外から20社以上の出店による商品の試食や販売が行われた他、生産者との交流、コープおきなわの事業や活動紹介、体験企画などが催され、どのブースも待ち時間が出るほど大人気でした。

ステージでは現代版組踊「肝高の阿麻和利」や、子どもたちに大人気の「琉神マブヤーショー」の他、保育園児や地域サークルによる演舞など、大人も子どもも楽しめる多彩なプログラムが披露され、会場は熱気に包まれました。

来場者からは、「ずっと楽しみでした。子どもたちもいろいろ体験できたので良かった」「生産者さんと会えたし、コープのいろいろな取り組みも分かって良かった」「祭りは楽しい！次回は10年後ではなく5年後くらいに！」「人に対して会場が狭すぎ。次回はもっと広い会場で行って」といった声が寄せられました。

フェスタへの来場者数は約1万3000人と、大盛況のうちに幕を閉じました。

また、3月には石垣島でも「コープフェスタ in 石垣」を開催、2000人が参加しました。



2月21日(日)、会場となった沖縄コンベンションセンター展示棟は大勢の人でにぎわいました



新鮮な循環が野菜を提供（あらぐさ：八重瀬町）



食育推進委員会の皆さんによる「おにぎらず教室」はあっという間に定員が埋まるほど大人気！



コープの制服を着てトラックに乗ったり、商品の荷下ろしを体験できる協同購入お仕事体験では、「コープのトラックに乗れてうれしい」と、どの子も笑顔を見せていました



岩手から参加の東日本大震災復興支援プロジェクト「かけあしの会」へ、(有)中央食品加工の樫村充彦社長(写真右)よりフェスタでの売上金が贈呈されました

